

第10回

## 木と風の音楽 ～木管楽器に親しむ～

### 学習のねらい

一般には笛とよばれている木管楽器はそれぞれの音色に特徴があり、オーケストラの中ではさまざまな色彩を加えるために重要な旋律楽器として扱われています。初期にはすべて木製の管内にある空気を息によって振動させて音を出していたので木管楽器と言われました。人間の声に対応する4つの楽器がその個性を主張しあって用いられています。



講師  
青島 広志

### フルートを通して木管楽器の基本的なしくみを知る

フルートはオーケストラに含まれる木管楽器の中で最も単純な構造をしており、古くは木製の管を横にかまえ、歌口と呼ばれる穴に唇をあて、直接息を吹き込んで音を出します。

音高は管の中にある空気の長さを、管にあげた穴を指で押さえて直接調節します。フルートは木管楽器の中では女性の高いパートであるソプラノを受け持つ楽器で、ピアノの中央のドから3オクターヴ上までの音域を持っています。小型のフルートであるピッコロは、さらに1オクターヴ上の音まで出すことが可能です。木管楽器もまた、弦楽器と同じように大型になるほど低音域が出せるようになっています。

### オーボエ・クラリネットを用いてリード楽器の特徴を知る

フルートより大きい木管楽器には、クラリネット、オーボエ、ファゴット（バスーンともいう）があります。これらの楽器はいずれも縦笛で、リードを付けて演奏します。

リードとは、植物などを加工して作った発音体で、楽器によって異なります。

非常に薄く削った2枚リード（ダブルリード）のオーボエ、ファゴットと、1枚リード（シングルリード）のクラリネットなどがあります。リードの違いが音色の違いとなって現れ、ダブルリードの楽器のほうがある意味で刺激的に感じられるでしょう。

現在では、銀や金で作られるフルートは別として、クラリネット、オーボエ、ファゴットは、木管の材質としてグラナディラや楓かえでなどが使われています。



## メロディーの構造について考える

リード楽器にもそれぞれの音域と音色の特徴があります。オーボエはピアノの中央のドよりわずかに下のシ♭が最低音で伸びやかで叙情的なメロディーを得意とし、古くから田園風景を描写するのに用いられてきました。フルートからクラリネットまでは、ト音記号で楽譜を記します。しかし、ファゴットはヘ音記号で表すのが普通で乾いた滑稽とも感じられる音色を持ち、音の跳躍が得意なため「木管楽器の道化師」とも呼ばれています。

合奏曲を編曲するときは、それぞれの楽器の音域と特性を十分に生かしてメロディーを分担させることがなにより大切です。各楽器にはそれぞれに表現しやすい音域が決まっています。フルートは高音域、ファゴットは低音域、オーボエとクラリネットは中音域となっています。

### ワードファイル

リード……………植物の茎などを薄く削り、楽器に差し込んで用います。唇の振動を管に伝える役目を果たします。

分散和音……………アルペジオと言い、和音の各音を順番に上下させて演奏します。華やかな効果を生む奏法です。

メヌエット……………フランスで始められた3拍子の舞曲。宮廷での舞踏会に好んで用いられました。

### ♪ 今回取り上げる曲 ♪♪♪

- バレエ音楽「白鳥の湖」 小さな白鳥の踊り : チャイコフスキー 作曲
- 組曲「アルルの女」 メヌエット : ビゼー 作曲
- バレエ音楽「白鳥の湖」 情景 : チャイコフスキー 作曲
- クラリネット・ポルカ : 伝ポーランド民謡
- 歌劇「カルメン」第2幕への間奏曲（アルカラの竜騎兵）: ビゼー 作曲
- 駅馬車 : 映画「駅馬車」から 青島広志 編曲